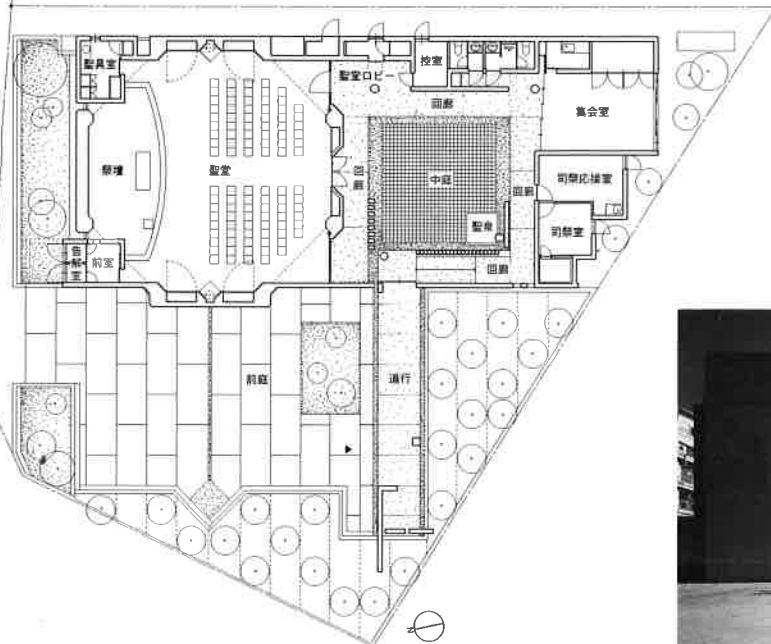


断面 縮尺 1/300



平面 縮尺 1/400

設計施工 戸田建設
敷地面積 931.50㎡
建築面積 312.38㎡
延床面積 302.93㎡
階数 地上1階
構造 鉄筋コンクリート造
工期 1996年3月～1996年9月



前庭から見た西側外観。

この施設は、聖マリアンナ医科大学創立25周年の記念施設として、大学や病院の精神的な象徴、患者や周囲の信者への開かれた教会として計画された。

280坪のイレギュラーな敷地。近隣の住宅が隣接し、擁壁に囲まれた敷地条件。都会の喧噪にさらされ、周囲の騒音、他人の生活や視線におかれる中、教会建築としての光の空間性と敷地としての場の精神性を高めることをテーマと考えた。

100名収容の聖堂と司祭の諸室を併せもつきわめて小規模なこの施設は、空間的序列をもった余白の領域（前庭・中庭）と密接な関係を保ちながら意図的に配置されている。このふたつの領域は、礼拝に訪れる信者に「高揚と余韻」を段階ごとに与えるもので、静寂へのシークエンスを恣意的効果としてねらったものであり、建築と外部を視覚的につなげながら内部空間に導き入れる手法として用いた。

礼拝者は都会の喧噪から前庭に身を置く。前庭は、精神的な高揚の序曲の場として位置

づけた。この領域は、特に建築的空間のしつらえを避け、周囲の環境や状況との対比により、場としての意味合いをより強調することをねらった。規則的に配された植栽・床のパターン、そして聖堂の煉瓦の壁から低く延びた庇は格子の向こう側の中庭へと誘導する。

中庭は、聖堂と同等の聖域の場として位置づけた。中庭の周囲には回廊が廻り、聖堂と司祭室・集会室が中庭と密接な関係を保ちながら配されている。この領域は、空間的比重を低く抑えることで意識を中心に向け、周囲の雑踏から気持ちを切り離し、精神的高揚をより高める効果をねらったものである。この場において、庭を建築空間と対等なエネルギーを発散する場として存在することを望んだ。どの場においても、庭と内部空間が同じ比重で絡み合い、一步あゆめば、中庭からの光・風・音は内部空間を駆けめぐり、おのおのの気配を感じつつ内と外の浸透圧が飽和した空間となる。偶然と未知の要素をはらみながら、中庭が空

間に、空間が中庭にそれぞれ移ろいながら織り込まれていく。

聖堂は、建築としての象徴性を強調するため前面側に配置し、中心性・求心性をもつ平面形態でまとめられている。これは伝統的なバシリカ方式の空間構成よりも祭壇と信者との距離をより近づけることにより、神と信者との精神の一体感を享受できると考えたからである。そして、周囲の騒音や視線を防ぐためにも極力開口部を制御し、ステンドグラスからこぼれる光、天空から降り注ぐ光は、より精神性の高い光の空間を創造することができる。

当初、何もなかったこの場所に建築が建てられ、建築が周囲の環境と干渉して風景となり都市空間と呼応して街並みをうくるとき、そこに新しい視覚的・精神的な意味が生じる。そして、この場所に建築が建てられたことの意義が、人びとに読み取られるものとなることを期待してやまない。

(田井勝馬／戸田建設)